

まちとのゆかり再確認

「ひの郷会」「ふるさと住民票」夏の交流会



ふるさとの味・話題で交流深める

8月14日、関西地区在住の日野町出身者懇談会「ひの郷会（小谷誠代表世話人）」と、ふるさと住民票登録者による夏の交流会が、山村開発センターで開かれました。盆の帰省時期に合わせ開かれた交流会には、地域住民も参加。それぞれ家庭料理や郷土料理を持ち寄りながら、ふるさとの懐かしい話題に花を咲かせました。交流会後には、根雨のまちなかで開かれていた燈籠まつり・盆夜市に参加する人の姿も。会場で懐かしい人と各自の近況などを話すなど、旧交を温めていました。

ひとときの涼とふるさとの温もり感じて

根雨六区有志の会がそうめん流し

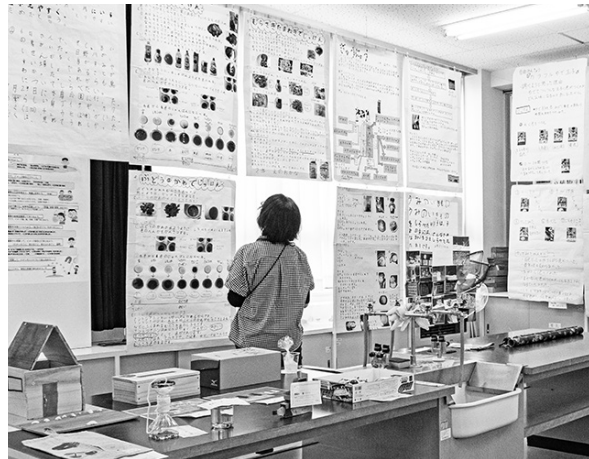


次々と流れるそうめん暑さはどこへやら

地域や都会で育った子どもたちにも、ふるさとへの愛着を持ってもらうと、8月14日、根雨6区の稲荷神社近くの駐車場で、お盆子ども夏まつりが開かれました。これは、根雨六区有志の会（川上正治代表）が、町地域活動支援交付金を活用し、毎年盆の時期に開いているものです。今年も地域住民や帰省していた親子ら約100人がそうめん流しともちまきを楽しみました。参加者は、竹から冷たいそうめんが流れてくる様子に涼を感じながら、夢中でほおぼっていました。

この夏の思い出がギュツ

小学校夏休み作品展



ユーモアあふれる自由研究がズラリ

夏休み中に子どもたちが取り組んだ自由研究や工作などの成果を多くの皆さんに見てもらおうと、根雨小学校と黒坂小学校で、夏休み作品展が開かれました。牛乳パックや空き缶、割りばしなどで作ったユニークな工作から、日ごろ疑問に感じたことや興味のあることを研究した作品まで所狭しと展示され、訪れた人は楽しそうに眺めていました。同作品展は、黒坂小学校が9月24日まで参観可能とのこと。まだ見ていない人は、この機会に行ってみてはいかがでしょうか。

笑いとセンスあふれる舞台

お芝居くらぶさん・ふいーるど公演



三蔵一行は無事に唐の都へ到着するも…

町内で活動している劇団、お芝居くらぶさん・ふいーるど（佐野咲百合代表）の結成20周年記念公演「さんふいーるど西遊記Go East」が、8月25日、町文化センターで上演されました。脚本は、おなじみの西遊記の物語をアレンジしたオリジナル。ありがたいお経を求めてようやくたどり着いた天竺から、唐の都へ帰る三蔵一行に最後の苦難が待ち受けるという物語を、笑いを交えながらテンポよく演じました。同劇団は、今年で結成20年。メンバーが見せる息の合った演技に、客席からは笑い声や拍手が起こっていました。



地域の玄関である駅を心安らぐ場所に
JR黒坂駅・上菅駅を清掃



上菅駅での清掃に参加した皆さん

8月4日、黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）が、JR黒坂駅と上菅駅周辺の草刈りと清掃作業を行いました。

黒坂駅では、町観光協会の協力もあり、11人が参加し、駅裏や構内の草刈りを行いました。一方、上菅駅では、29人が参加し、駅舎や陸橋、自転車置き場、花壇の手入れなどを行いました。

参加者は、盆の帰省前に地域の顔でもある駅周辺の美化を行うことで、多くの利用者に喜んでもらえる満足そうな表情でした。

ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第74回

そもそも「たたら」とは？

奥日野地域で古くから行われ、江戸く明治にかけて地域の一大産業だった、日本独特の製鉄法、「たたら製鉄」。かつての遺構がほぼ完全に残っており、学術的にも貴重な都合山たたら跡（中菅）も注目を集めています。

で、そもそも「たたら」ってどういう意味なの？
「たたら」とは、製鉄炉の温度を上げるための送風装置「ふいご」のことといわれ、やがて製鉄作業そのものを指すようになったようです。

「たたら」を漢字で書くと、鈿、踏鞴、鑪、多々良などなど、多くの種類があります。それと同じように、名前の由来もさまざまな説があります。

ダツタン語で猛火という意味をもつ「タタトル」、サンスクリット語で熱を表す「タータラ」のほか、タタール人が製鉄技術を伝えたから、という説もあります。本当のところはわかりませんが、なにやらオリエンタルな香りのする言葉ですね。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会

日野町人権・同和教育推進協議会広報紙 人権のまちひの 2019年9月

第44回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会に参加して

8月8日、倉吉市で開かれた「第44回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会」に、日野町から16人が参加しました。研究集会では、下記の内容で講演が行われました。

演題 「どんな性の在り方も排除されない園・学校・職場・地域とは？ ～子どもたちとの出会いから見てきたこと～」
講師 田中一歩さん、近藤孝子さん（にじいろi-Ru）

講師の田中さんは女性として生まれましたが、好きになる対象が女性だったり性別に違和感を感じ、「つばさ」と名乗り男性として過ごしてきました。性別のことについて、誰にも相談することができなかった田中さんですが、近藤さんと出会い、「にじいろi-Ru（アイル）」を立ち上げます。

「にじいろi-Ru」とは多様性を表し、一人で悩んでいるセクシュアルマイノリティ（性的少数者）をはじめ、すべての子どもたちが「ありのままの自分」でいられるよう、さまざまな活動を行っています。

その活動の一つとして、「自分を生きるためのルール」を届けようと、全国の保育所や学校、地域に出かけ、出前講座を3年間で約400回開いてきたという2人。「自分のあたりまえ、が隣の友だちのあたりまえ、ではないことに気付いた」「自分自身について考えるきっかけになった」など、参加者の感想を紹介しながら、子どもたちの変化に触れました。

また、田中さんは「社会には性の在り方をめぐるさまざまなこうあるべき、という規範がある」「この社会には、男と女しかない。そして、それは身体のかたちで決まっている」と前置きした上で、「人は誰しも異性を好きになるものだと思われているかもしれませんが、性はすべての人にあり、一人一人違います。どのような性を生きるか、自分がどんな存在でありたいか、誰が好きで、誰とどんな関係を結んでいきたいかを決める権利は子どもたちにもある」と語りかけました。

今回の講演を通し、性別・性的指向・性別表現など情報を知る権利やそれぞれの自己決定が保障され尊厳が守られるためにも、啓発や広報の大切さを痛感しました。

